

2016年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	統括：大学自己点検・評価委員会	担当：全学教務委員会
評価基準4	教育内容・方法・成果	
中項目 4-2	教育課程・教育内容 【自己評定：A】	
点検・評価項目(1)	4-2-1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	
評価の視点	必要な授業科目の開設状況【全学教務委員会】	
	順次性のある授業科目の体系的配置【全学教務委員会】	
	【学部】専門教育・教養教育の位置づけ【全学教務委員会】	
点検・評価項目(2)	4-2-2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。	
評価の視点	【学部】学士課程教育に相応しい教育内容の提供【全学教務委員会】	
	【学部】初年次教育・高大連携に配慮した教育内容【全学教務委員会】	
	キャリア教育の実施状況【全学教務委員会】	
点検・評価項目(4)	4-2-4 教育課程の適切性について定期的に検証を行っているか。	
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 【全学教務委員会】	

II 点検・評価

【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-2-1	<p>本学の学士課程の授業科目は、基礎教育科目、全学共通科目、専門教育科目の3つの科目群から構成される。これは基礎・教養から専門へと段階的な学習ができるよう、順次性と体系性に配慮して編成されたものである。</p> <p>専門教育科目は、学部・学科がそれぞれの教育目標を達成するために、教育課程の編成・実施方針に基づいて、独自に編成した科目群である。基礎教育科目は、東松山キャンパスで開講される全学部共通の科目群（主としてフランス語、中国語等の外国語科目）と、学部・学科が独自に編成した、専門教育を受けるのに不可欠の科目群から構成される。全学共通科目は、東松山キャンパスで学ぶ全学部の1、2年生を対象に、豊かな教養と高い倫理性を備えた人間を育成することをめざして開講される科目群である。</p> <p>いずれの科目群も、順次性と体系性に配慮して配当年次を定めるとともに、必修科目・選択科目（選択必修科目）・自由科目の別、授業期間（半期・通年）が設定されている(A4-2-1第23条の4～第23条の27)。授業は全学部共通の学年暦に基づいて行われる。</p> <p>授業科目は、学部・学科の教務委員会、カリキュラム委員会、学科協議会、教授会、東松山キャンパス運営委員会等における十分な検討のうえに編成され、必要に応じて見直しと改正が行われる。</p> <p>留学生のための日本語教育科目は国際交流センターで検討し、教職等の資格取得のための科目および博物館学講座については、教職課程センター管理委員会で検討する。</p> <p>大学院研究科については、それぞれの教育目標に基づいて、コースワーク（講義科目）とリサーチワーク（研究指導科目・論文作成指導科目）のバランスに配慮しつつ、教育課程が編成されている。すなわち、各専攻・課程とも、「関連講義科目」「専門講義科目」「授業科目」「共通科目」「導入科目」「基礎講義科目」等の名称でコースワークの科目を、「研究演習」「研究指導科目」等の名称でリサーチワークの科目を開講し、順次性と体系性に留意した科目編成を行っている(A4-2-2第5条の3および別表1～別表7)。</p>
4-2-2	<p>本学は、大学また学部・学科、研究科・専攻・課程ごとに教育課程の編成・実施方針を定め、それに基づいてカリキュラムを適切に編成し、学部・大学院にふさわしい教育内容を提供している。</p>
4-2-4	<p>教育課程の適切性については、カリキュラム改正の際に、学部長会議、大学評議会、研究科委員長会議、大学院評議会などの会議体において議論される。毎年度実施する自己点検・評価活動では、大学基準に基づき、点検・評価シートに「教育課程・教育内容」を問う項目を設定し、検証を行っている(B4-2-10)。</p>

【効果が上がっている事項】

4-2-1	
4-2-2	
4-2-4	

【改善すべき事項】

4-2-1	<p>各学部・学科の教育、また東松山キャンパスの1、2年次を対象とした教育については、学部教授会、学科協議会、東松山キャンパス運営委員会等において十分な議論を行い、適切に編成されている。しかし、全学的なカリキュラムの共通化・柔軟化・スリム化、時間割編成の合理化、アクティブ・ラーニング等を通じた学生の主体的な学びの促進、学習効果の可視化、キャリア教育・初年次教育の充実など、学部・学科をまたいだ共通の教育課題を議論し、調整する体制が構築されていない</p>
-------	--

	(B4-2-10)。
4-2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・教職課程科目は、当該教科の免許を出す学科の科目として設置しなければならない。2年後の教職課程再認可に向けて、全学共通科目にある社会科関連の教職科目を、いずれかの学科の専門科目に移す必要がある。 ・キャリア関連科目に関して、2014年度の評価専門委員会の所見に、「効果が上がっているとはいえないのではないか」という指摘があった。たしかに、総受講者数は多いが、順次性のある体系的なカリキュラムにはなっていない。
4-2-4	

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

A4-2-1	大東文化大学学則 《既出》A1-1
A4-2-2	大東文化大学大学院学則 《既出》A1-2
A4-2-3	大学案内「CROSSING2016」 《既出》A1-6
A4-2-4	2015年度諸資格課程履修の手引き 《既出》A4-1-6
A4-2-5	文学部 履修の手引き 平成28(2016)年度入学生用 《既出》A1-9
A4-2-6	経済学部 履修の手引き 平成28(2016)年度 《既出》A1-10
A4-2-7	外国語学部 経(履修の手引き) 《既出》A4-1-9
A4-2-8	法学部 履修の手引き 平成28(2016)年度入学生用 《既出》A1-11
A4-2-9	国際関係学部 ガイドブック 平成28(2016)年度入学生用 《既出》A1-12
A4-2-10	経営学部 履修の手引き 平成28(2016)年度 《既出》A1-13
A4-2-11	環境創造学部 履修の手引き 2016 《既出》A4-1-13
A4-2-12	スポーツ・健康科学部 羅針盤(履修の手引き) 2016 《既出》A1-14
A4-2-13	大学院履修要項アジア地域研究科 2016年度 《既出》A1-15
A4-2-14	大学院履修要項スポーツ・健康科学研究科 2016年度 《既出》A1-16
A4-2-16	大東文化大学・大学院シラバス (CD-R) 大東文化大学ホームページ (Web シラバス) http://www.daito.ac.jp/campuslife/syllabus/index.html
A4-2-17	平成28(2016)年度 文学部時間割表
A4-2-18	平成28(2016)年度 経済学部時間割表
A4-2-19	平成28(2016)年度 外国語学部時間割表
A4-2-20	2016年度 法学部時間割表
A4-2-21	国際関係学部 2016年度時間割表
A4-2-22	平成28(2016)年度 経営学部時間割表
A4-2-23	平成28(2016)年度 環境創造学部時間割表
A4-2-24	2016年度スポーツ・健康科学部時間割表
A4-2-25	平成28(2016)年度 文学研究科時間割表
A4-2-26	平成28(2016)年度 経済学研究科時間割表
A4-2-27	平成28(2016)年度 法学研究科時間割表
A4-2-28	平成28(2016)年度 外国語学研究科時間割表
A4-2-29	2016(平成28)年度 アジア地域研究科時間割表
A4-2-30	平成28(2016)年度 経営学研究科時間割表
A4-2-31	2016年度スポーツ・健康科学研究科時間割表
B4-2-1	大学ホームページ (全学教育全学共通科目) http://www.daito.ac.jp/education/whole_university/common.html
B4-2-10	大東文化大学ホームページ (自己点検・評価活動) http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/index.html 《既出》B1-16
B4-2-14	全学教務委員会規程 《既出》B1-20
B4-2-19	2016年度学年暦
B4-2-23	大学データ集 《既出》B1-22
〔追加資料〕	

Ⅲ【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標	目標達成の指標となるもの	評価
------	--------------	----

			2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～ 2018)	[全学教務委員会] 4-2-1,4-2-2 ・カリキュラム改革、初 年次教育・基礎教育、キャリア教 育の強化、G P Aの導入など、学 部横断的な課題を解決し具体的 な改善を行うために全学の調整シ ステムを構築する。	・学部教授会、大学評議会等の承認を得 て体制が整備されている。			S		
	[全学教務委員会] 4-2-1 ・全学共通科目の見直しと再編 成を行う。	・再編方針に基づき全学共通科目の新た な編成表が東松山キャンパス運営委員 会、学部教授会、大学評議会等の承認 を得て実行されている。			C		
	[全学教務委員会] 4-2-1 ・学生の自発的な学びを促すた めに、順次性のある授業科目の体 系的配置を可視化する。	・授業科目と教育目標の関係を表として 示したカリキュラム・マップの作成、 授業科目間の系統性・連続性を図示し たカリキュラム・ツリーの作成など、 可視化に向けた具体策がまとめられ、 履修の手引き等に記載されている。			B		
14年度 目標	[全学教務委員会] 4-2-1,4-2-2,4-2-3 ・教育内容・方法 に関する学部横断的課題について 検討を始める。	・左記の検討内容が学部長会議、学部教 授会等で報告されている。	C				
	[全学教務委員会] 4-2-1 ・順次性のある授業科目の体系 的配置を可視化することについて 検討を始める。	・可視化のための実行プラン・工程表を 提示する。	C				
15年度 目標	4-2-1,4-2-2,4-2-4 ・学部横断的な課 題を解決し具体的な改善を行うた めに全学の調整システムを構築す る。	・それを担う組織が大学評議会等の承認 を得て設置されている。		S			
16年度 目標	4-2-1(4-1-1の2016年度目標として 掲げた事柄、すなわち、「教育目標 との整合性の観点から学位授与方 針および教育課程の編成・実施方 針を再検討する」と連動して) 授 業科目と教育目標の関係を表とし て示すカリキュラム・マップの作 成、授業科目間の系統性・連続性 を図示するカリキュラム・ツリー の作成など、可視化に向けた具体 策の検討を行う。 4-2-1, 4-2-2 全学共通科目の教職 課程科目を学科の専門科目に移 す。 4-2-2 キャリア関連科目の見直し を行う。	・全学教務委員会で具体策をまとめるた めの方法(分科会などの設置)を策定 し検討を進める。 ・教職課程センターでの議論と歩調を合 わせながら、東松山キャンパス運営委 員会および当該学科で議論が行われ、 結論が出ている。 ・全学教務委員会の下に、キャリア関連 科目見直しのためのワーキンググル ープが設置され、議論が開始されてい る。			A		